

NTT データの変革を、実績のあるフルレイヤーの アライアンス製品で支援する日本オラクル

オラクルの30年の歴史は、常にデータベース業界をリードする最先端の技術を提供し、世界No.1のシェアを獲得している。そしてその延長線上にある「Oracle Database 11g」は、「Real Customer Release」、すなわち顧客にとってのバリューを第一に考えたリリースとし、開発だけではなくシステムの検証・維持・運用を含めたITコストを大幅に削減することが可能だ。顧客が抱える共通課題であるITシステムの維持・運用にかかるコストの削減を支援し、新規サービスなどの戦略的なIT投資の価値を最大化するために必要なプラットフォームをフルスタックで提供するオラクル。

ここでは、NTTデータとオラクルのこれまでのリレーションの実績を紹介するとともに、オラクルがNTTデータに向け、最近特に注力している「Oracle AIA」（アプリケーション・インテグレーション・アーキテクチャー）、SOAや「Oracle VM」などの最新ソリューションを紹介する。

世界最大規模のミッションクリティカルシステムにも Oracle DBを採用

日本オラクルとNTTデータとの関係は古く、オラクルが日本に進出

した1985年頃に始まった。日本オラクル 常務執行役員の三露 正樹アライアンス統括本部長は、当時からのNTTデータとの関係を次のように語っている。

「NTTデータ様の創立20周年、大変おめでとうございます。NTTデータ様は、日本を代表するSIerとして、日本のITシステム構築のリーダーとして活躍されており、また、私どもも期待が大きいSIerであると考えています。オラクル製品をNTTデータ様に本格的にご採用いただいたのは、大規模で複雑な環境向けに設計されたOracle Database 7からです。それ以後今日まで、公共・金融・法人のすべての分野へご提供することができ、世界を代表するようなミッションクリティカルなシステムをご一緒にお客様へご提供できてきたことは、私どもとしても光栄です。」

トータル・バリューの提供により顧客のIT投資の価値を最大化する

2005年以降オラクルは、“オラクル=データベース”という構造から脱却し、新たな収益源を確保するためにM&Aを加速。これまでに39社を買収した。これによりオラクルは、



日本オラクル(株)
常務執行役員
アライアンス統括本部長
三露 正樹氏

ソフトウェアベンダーとして、データベース以外のSOA・ECM・BIを中心としたミドルウェア製品「Oracle Fusion Middleware」やCRM・SCM、HCMなどのビジネスアプリケーション製品「Oracle Applications」に大きく進出してきたことでオラクル自身もその姿と、ソフトウェアベンダーとしての価値が大きく変化した。

そして、NTTデータとオラクルとの関係もデータベース製品以外に、ミドルウェアやビジネスアプリケーション製品までをインテグレーションし、顧客の企業経営の核となるプラットフォームを提供するパートナーとなっている。

「データベース製品中心のビジネスから過去3年、オラクルは変化し

ています。それはM&A戦略により品揃えが大幅に増えたオラクル製品を、私どもは、お客様の目線でお客様にとってどのようなバリュー（価値）が提供できるかについて正確にご提案することに努めています。これは現在のオラクル製品が、より付加価値の高い製品になっていることから、製品のメリットを理解し、活用していただく必要があるからです。ミドルウェア、ERPなどのパッケージ製品や業界特化のソリューションなどがその代表的な製品です。そこで、私どもではエンドのお客様へオラクルの方向性をご理解いただくために、ITシステムの運用方法などまでご紹介しています。そして、従来以上にパートナー様とのアライアンスを強化し、オラクル製品をシステムに実装していただくことを目指しています。そのような状況の中、NTTデータ様は、エンドのお客様へ一番近く、広範囲なビジネス領域でお客様へITシステムをご提供しているSIerであり、また、メインフレームからクライアント/サーバシステムによるオープンシステム、Webシステムまで、日本のITシステムのトレンドを作ってきたのもNTTデータ様であると考えています。私どものようなソフトウェアベンダーの提供する製品を実装方法からシステム構築・運用まで、お客様の目線で現実的な価値を最終的に判断し、お客様へご提供しているSIerがNTTデータ様です。」（前出 三露 正樹アライアンス統括本部長）

サービスのプラットフォームの 共通化を支援する

ITシステムの運用形態も変化している。最近では、SaaSやRaaS（Resource as a Service）などの提供形態も注目されている。

「お客様の求めるITの運用形態やソフトウェアの提供形態が変化している状況で、ソフトウェアとハードウェアのメリットを正確に評価され、お客様へ訴求されるNTTデータ様が、注目されているSIerです。一方でオラクルは、実績のある従来型の『On Premise（自社運用型）』と『On Demand（SaaS型）』の2種類に分類し、お客様の求める形態でご提供できるソフトウェアベンダーです。更にはサービスのプラットフォーム（基盤）の共通化により、お客様へサービスを提供することがSIerのメイン業務と志向するNTTデータ様の取組みに対して、オラクルは、ご支援



日本オラクル(株)
常務執行役員
製品戦略統括本部長
三澤 智光氏

していきたいと考えています。具体的には、Oracle Fusion MiddlewareやSiebel On DemandなどのSaaS型のサービスをNTTデータ様のサービスメニューの中に融合していただくことをご提案しています。」（前出 三露 正樹アライアンス統括本部長）

クラウドコンピューティング環境を支えるITインフラ構築を全層で提供

オラクルは現在、図1に示すように、ネットワークインフラ以外の

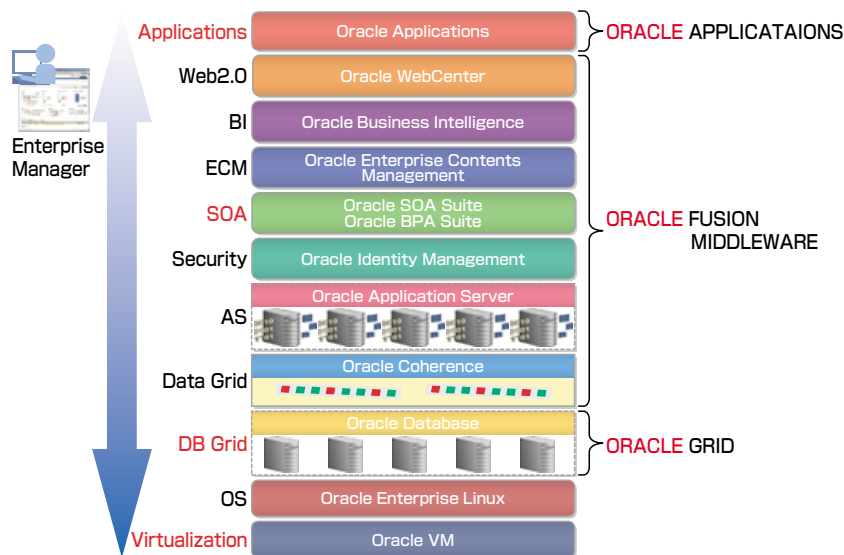


図1 クラウドコンピューティング環境に必要なコンポーネントをフルスタックで提供

ITインフラをすべてハンドリングできる唯一のソフトウェアベンダーだ。日本オラクル 常務執行役員の三澤 智光製品戦略統括本部長は、オラクルプラットフォーム戦略について、「最近、SaaSやクラウドコンピューティングが、注目されています。クラウドコンピューティングを支える最大のテクノロジーは、Gridです。つまり、CPUリソースを最適化することです。オラクルは、Grid Computingを推進している最大のソフトウェアベンダーです。そこでNTTデータ様が今後、クラウドコンピューティングの一角を担うデータセンターをご提供する際に、オラクルは、Oracle Grid Computingのテクノロジーにより堅牢で、ローコストな仕組みをサポートしていきたいと考えています。次に重要な次世代型コンピューティングインフラを支えるテクノロジーは、仮想化技術とSOAです。オラクルは、クラウドコンピューティングに必要なキーテクノロジーであるGrid+仮想化技術+SOAで新しいデータセンターやITインフラを支援します。つまり、Grid+仮想化技術で統合された共通インフラ基盤を構築し、SOAでビジネス・プロセスを連携します(図2参照)。こういったテクノロジーによるアーキテクチャーを整備し、クラウドコンピューティング環境を支えるITインフラの構築を支援していきたいと思ひます。しかもオラクルの提供するテクノロジーは、Open & Standardsな標準技術によって提供していますので、シス

テムの導入・運用コストを大幅に削減することが可能となります。」と語っている。

疎結合で設計されたビジネスアプリケーションで企業経営の変化に対応

オラクルの提供するビジネスアプリケーション製品「Oracle Applications」は、Outside-In (アウト・サイド・イン) という考え方をベースに疎結合でデザインされ、使いやすいことが特長だ。

「最近の企業経営の形態の変化やグローバル対応により、企業システムは自社内の最適化だけでは、新しいビジネスモデルや経営の変化に対応できなくなっています。また、新製品の早期投入が求められることによって製品開発のための市場とのやりとりなどが発生しています。これらにより、企業経営を支えるステークホルダーが増加していることが現状です。このような状況において、多くのステークホルダーとのやりとりをスムーズに実現するビジネスアプリケーション製品は、使いやすいことが最重要です。例えば、オラクル

は、Agile社を買収したことにより、PLMの領域においてグローバルで既の実績が高く、使いやすい『Agile PLM』を提供しています。Agile PLMにより、企業は製品に関するすべてのビジネスや技術情報を活用し、全社とプロダクトネットワークを横断する製品情報のシームレスな流れを作り出すことができます。さらに、オラクルが提供するビジネスアプリケーション製品は、疎結合型の考え方でデザインされていますので、企業経営の変化によるシステム変更が発生した際でも、関連するステークホルダーへの影響を最小限にするシステムデザインが可能になります。また、NTTデータ様には、オラクルが提供するグローバルでのベストプラクティスであるプラットフォームを日本の社会基盤インフラや業界横断型インフラへ投入していただきたいと考えています。」(前出 三澤 智光製品戦略統括本部長)

SOAを実現するフレームワーク Oracle AIA を提供

企業システムに必要なコンポーネ

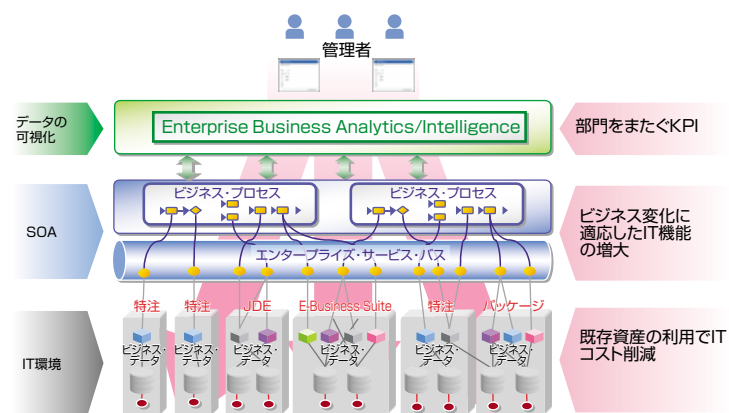


図2 SOAによって実現したいアプリケーションの統合

ントの中間層「Oracle Fusion Middleware」において、ビジネスアプリケーション製品と Oracle Gridとのビジネス・プロセスを連携するSOAのテクノロジーが重要である。様々なIT基盤上で多種多様なアプリケーションが利用されている現在の企業システムにおいて「システム同士をどのようにつなぐか」は大きな課題となっている。システム連携が容易にできるようになれば、既存のアプリケーションを使用してビジネスの即応性を向上させることができる。さらに、新サービスを市場にタイムリーに投入してビジネスの優位性を獲得したり、システムの導入・運用コストを削減することができる。そこで登場したのが、SOAのテクノロジーを用いてアプリケーション同士をつなぐ、Oracle AIAだ（図3参照）。

「オラクルの提供するSOAの最大の特長は、『Oracle SOA Suite』と呼ばれる定評のある使いやすい製品を提供している以外に、Oracle AIAというフレームワークも合わせて提供していることです。Oracle SOA Suiteは、既に高い評価を確立しているオラクルの最適なテクノロジーと、業界標準のインターフェースにより構成され、SOAの構築と既存のミドルウェア・プラットフォームへのデプロイを可能にします。そして、Oracle SOA Suiteにより、アプリケーションの粒度の設計や共通のデータモデルを設計でき、サービスの作成、管理とコンポジット・アプリケーションやビジネス・プロ

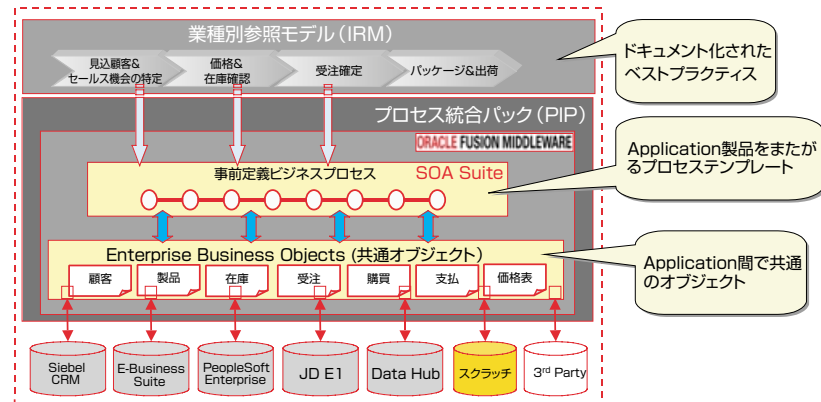


図3 Application Integration Architecture 概要

セスへの統合を実現します。」（前出 三澤 智光製品戦略統括本部長）

●短期間・低コストのパッケージ連携をSOA技術で実現したOracle AIA

Oracle AIAは、複数のアプリケーションにまたがるビジネス・プロセスを作成するための、Open & Standardsな標準技術をベースにしたフレームワークを提供する。このフレームワークは、現在のビジネス・プロセスを支援すると同時に、長期的かつ戦略的なビジネス変化に適応した機能を提供する。アプリケーションに依存しないOracle AIAにより、顧客はアプリケーションを自由に選択し、それらを活用して柔軟なSOA上に各ビジネスに特化したビジネス・プロセスを作成することができる。

NTTデータが、これまで構築してきたIT基盤と既存のビジネスアプリケーション資産であるプロセスとデータをどう結びつけるかという課題に対して、オラクルは、Oracle AIAを提供する。Oracle AIAにより、事前定義された業務プロセスを、複数のアプリケーション

間で実行するための基盤を低コストで提供する。ある試算では、BPELプロセスをすべてカスタム開発した場合と、Oracle AIAを利用した場合を比較すると、約85%のコスト削減効果が見込まれるという。

Oracle VMにより高効率で低コストなサーバ仮想化環境を実現

Oracle Gridの下層のスタックにオラクルは2008年3月、サーバ仮想化製品Oracle VMの提供を開始した。Oracle VMが実現する仮想化環境の特長は、大きく2つある。その1つ目は、性能の向上。他の仮想化製品と比べてオーバーヘッドが3倍以上の効率化が図られている。2つ目は、サポートの提供だ。オラクルのサポート組織によるバックアップ体制により、顧客はLinux OSとオラクル製品を含めた仮想化環境全体を、一本化されたサポート窓口を通じて受けることができる。

お問い合わせ先

Oracle Direct
 TEL : 0120-155-096
 URL : <http://www.oracle.co.jp/direct/>